D 28

住まいの適切な手入れに関する研究
――住まいの汚れと手入れに関する実態調査――

花王生活科学研　○坪井圭子　佐藤孝逸　重弘文子

〔目的〕住まいの各場所や部位の汚れは、生活行動との関連によって様々に異なり、またその手入れ方法も各個人の生活環境や意識の違いを反映して多様である。そこで、これらの実情や手入れ行動の実態などを探ることによって、「家庭における住まいの適切な手入れ」に関する考え方の整理を試みた。

〔方法〕昭和６０年１１月、大都市及び地方都市圏に住む普通世帯の主婦５００名を対象に（有効回収数３６３）、住まいの各部位６２箇所について・汚れの程度・手入れの頻度・手入れ方法・汚れの気になる程度・汚れの除去の困難さ・手入れの面倒さなどの調査を実施した。

〔結果〕汚れの程度と他の要因とを関連づけて検討し、以下の点が明らかになった。

①汚れ程度が大きいところとしては、換気扇やレンジフード、外窓の敷居の溝、台所排水管や網戸があげられた。これらの部位では、汚れは気になるが、除去が比較的困難であり、手入れが面倒で、その頻度も低くなっている。

②汚れ程度が小さいところでは、汚れの気になる程度が大きい程手入れ頻度も高い。このような部位としては台所の調理台や流し、浴槽その他浴室廻り、洗面台、洋式便器や便座などであった。これらは、日常の生活の中で目につき易く、衛生にもかかわりが深い。

③住まいの手入れは、そうじや整理整頓の好き嫌い、得意な程度、時間的余裕の有無、主婦の職業の有無などとの関連性が大きい。好き、得意なほど手入れ頻度が高く、汚れ度合が低い傾向がみられた。